



技術的な詳細

- [ベースステーションの仕様 \(1 ページ\)](#)
- [ハンドセットの仕様 \(2 ページ\)](#)
- [ネットワーク プロトコル \(3 ページ\)](#)
- [外部デバイス \(7 ページ\)](#)

ベースステーションの仕様

次の表に、ベースステーションの物理仕様および動作環境仕様を示します。

表 1: 物理仕様および動作環境仕様

仕様	値または範囲
動作温度	0 ~ 45°C (32 ~ 113°F)
動作相対湿度	10 ~ 90% (結露しないこと)
保管温度	-10 ~ 60 °C (14 ~ 140 °F)
保管相対湿度	10 ~ 95 % (結露しないこと)
高さ	4.75 in. (120 mm)
幅	4.75 in. (120 mm)
深さ	1.25 in (30 mm)
重量	6 oz (167g)
ケーブル	<ul style="list-style-type: none">• 10 Mbps ケーブルの場合はカテゴリ 3/5/5e/6 の 4 ペア• 100 Mbps ケーブルの場合はカテゴリ 5/5e/6 の 4 ペア

仕様	値または範囲
距離要件	イーサネット仕様でサポートされているとおり、各ベースステーションとスイッチ間のケーブル長は最大100m (330フィート) とします。
電力	ローカル電源向けパワーアダプタ イーサネット PoE (通常電源用イーサネットアダプタ)。IEEE 802.3 : パワークラス 2 (3.84~6.49W)
無線周波数 (RF) 帯域	帯域は工場で設定されており、顧客が変更することはできません。 <ul style="list-style-type: none"> • 1880 - 1895 (台湾) • • 1880 - 1900 MHz (オーストラリアおよびニュージーランド - 低電力 22 dBm) • 1880 - 1900 MHz (E.U. および APAC) • 1910 - 1930 MHz (LATAM およびアルゼンチン) • 1910 - 1920 MHz (ブラジルとウルグアイ) • 1910 - 1920 MHz (ウルグアイ - 低電力 140 mW) • 1910 - 1930 MHz (チリ - 低電力 22 dBm) • 1920 - 1930 MHz (米国およびカナダ)

ベースステーションの詳細な技術情報については、次のデータシートを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collaboration-endpoints/ip-dect-6800-series-multiplatform-firmware/datasheet-listing.html>

ハンドセットの仕様

次の表に、ハンドセットの物理仕様および動作環境仕様を示します。

表 2: 物理仕様および動作環境仕様

仕様	値または範囲
動作温度	0 ~ 45°C (32 ~ 113°F)
動作相対湿度	10 ~ 90% (結露しないこと)
保管温度	-10 ~ 60 °C (14 ~ 140 °F)

仕様	値または範囲
保管相対湿度	10 ~ 95 % (結露しないこと)
高さ	6825 ハンドセット: 4.6 in. (117 mm) 6825高耐久ハンドセット: 4.6 in. (117 mm) 6823 ハンドセット: 4.82 in. (122 mm)
幅	6825 ハンドセット: 1.8 in. (46 mm) 6825高耐久ハンドセット: 1.8 in. (46 mm) 6823 ハンドセット: 1.99 in. (51mm)
深さ	6825 ハンドセット: 0.78 in. (20 mm) 6825高耐久ハンドセット: 0.78 in. (20 mm) 6823 ハンドセット: 0.91 in. (23 mm)
重量	6825 ハンドセット: 3 oz. (86 g) 6825高耐久ハンドセット: 3 oz. (86 g) 6823 ハンドセット: 3.17 oz. (90 g)
電力	充電可能なりチウム イオン バッテリ

ハンドセットの詳細な技術情報については、次のデータシートを参照してください。

<https://www.cisco.com/c/en/us/products/collaboration-endpoints/ip-dect-6800-series-multiplatform-firmware/datasheet-listing.html>

ネットワーク プロトコル

Ciscoハンドセットおよびベースステーションは、音声通信に必須の複数の業界標準ネットワークプロトコルとシスコネットワークプロトコルをサポートしています。次の表に、ハンドセットおよびベースステーションでサポートされるネットワークプロトコルの概要を示します。

表 3: サポートされるネットワーク プロトコル

ネットワーク プロトコル	目的	使用方法に関する特記事項
ブートストラップ プロトコル (BootP)	BOOTPは、ハンドセットなどのネットワークデバイスを有効化し、IPアドレスなどの確かなスタートアップ情報を見つけます。	—

ネットワークプロトコル	目的	使用方法に関する特記事項
Cisco Discovery Protocol (CDP)	<p>CDPは、シスコの製造するすべての装置で動作するデバイス検出プロトコルです。</p> <p>デバイスは、CDPを使用して自身の存在をネットワーク内の他のデバイスにアドバタイズし、ネットワーク内の他のデバイスの情報を受信できます。</p>	<p>補助VLAN ID、ポートごとの電源管理の詳細情報、Quality of Service (QoS) 設定情報などの情報をCisco Catalystスイッチとやり取りするために、デバイスでCDPが使用されます。</p>
Domain Name Server (DNS)	<p>DNSはドメイン名をIPアドレスに変換します。</p>	<p>ベースステーションは、ドメイン名をIPアドレスに変換するDNSクライアントを備えています。</p>
ダイナミックホストコンフィギュレーションプロトコル (DHCP)	<p>DHCPは、IPアドレスを動的に確保して、ネットワークデバイスに割り当てるものです。</p> <p>DHCPを使用すると、ベースステーションをネットワークに接続すれば、そのベースステーションが機能するようになります。IPアドレスを手動で割り当てたり、ネットワークパラメータを別途設定したりする必要はありません。</p>	<p>DHCPは、デフォルトで有効になっています。無効になっている場合は、IPアドレス、サブネットマスク、およびゲートウェイをベースステーションごとに手動で設定する必要があります。</p> <p>DHCPのカスタムオプション160および159を使用することを推奨します。</p>
Hypertext Transfer Protocol (HTTP)	<p>HTTPは、インターネットやWeb経由で情報を転送し、ドキュメントを移送するための標準プロトコルです。</p>	<p>ベースステーションは、XMLサービス、プロビジョニング、アップグレード、トラブルシューティングの目的でHTTPを使用します。</p>
Hypertext Transfer Protocol Secure (HTTPS)	<p>HTTPSは、サーバの暗号化とセキュアなIDを確保できるように、ハイパーテキスト転送プロトコルとSSL/TLSプロトコルを組み合わせたものです。</p>	<p>HTTPとHTTPSの両方をサポートするWebアプリケーションには2つのURLが設定されています。HTTPSをサポートしているベースステーションはHTTPS URLを選択します。</p> <p>サービスへの接続がHTTPS経由である場合、鍵のアイコンがユーザに表示されます。</p>

ネットワークプロトコル	目的	使用方法に関する特記事項
インターネットプロトコル (IP)	IP は、パケットの宛先アドレスを指定し、ネットワーク経路で送信するメッセージングプロトコルです。	IP を使用して通信するには、ネットワークデバイスに対して、IP アドレス、サブネット、およびゲートウェイが割り当てられている必要があります。 Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) を使用できるベースステーションを使用している場合、IP アドレス、サブネット、ゲートウェイ ID は自動的に割り当てられます。DHCP を使用しない場合は、これらのプロパティを各ベースステーションに手動でローカルに割り当てる必要があります。
Network Time Protocol (NTP)	NTP は、遅延変動のあるパケット交換データネットワークでコンピュータシステムのクロックを同期するためのネットワーキングプロトコルです。	ベースステーションは NTP を使用してタイムサーバと通信します。
Real-Time Transport Protocol (RTP)	RTP は、インタラクティブな音声やビデオなどのリアルタイムデータをデータネットワーク経路で転送するための標準プロトコルです。	ベースステーションは RTP プロトコルを使用して、リアルタイム音声トラフィックを他のデバイスやゲートウェイとやり取りします。
Real-Time Control Protocol (RTCP)	RTCP は RTP と連動して、RTP ストリーム上で QoS データ (ジッター、遅延、ラウンドトリップ遅延など) を伝送します。	RTCP はデフォルトでは無効になっています。
Session Description Protocol (SDP)	SDP は SIP プロトコルの一部であり、2つのエンドポイント間で接続が確立されている間に、どのパラメータを使用できるかを決定します。会議は、会議に参加するすべてのエンドポイントがサポートする SDP 機能だけを使用して確立されません。	コーデックタイプ、DTMF 検出、コンフォートノイズなどの SDP 機能は、通常は運用中のサードパーティコール制御システムまたはメディアゲートウェイでグローバルに設定されています。SIP エンドポイントの中には、これらのパラメータをエンドポイント上で設定できるものがあります。

ネットワークプロトコル	目的	使用方法に関する特記事項
Session Initiation Protocol (SIP)	SIP は、IP を介したマルチメディア会議のためのインターネット技術特別調査委員会 (IETF) 標準です。SIP は、アプリケーション層の ASCII ベースの制御プロトコルであり (RFC 3261 で規定)、2 つ以上のエンドポイント間でコールを確立、維持、および終了するために使用できます。	他の Voice over IP (VoIP) プロトコルと同様に、SIP はパケットテレフォニーネットワークにおけるシグナリングとセッション管理の機能に対応するよう設計されています。シグナリングは、ネットワーク境界を越えて通話情報を伝送する機能です。セッション管理は、エンドツーエンドコールの属性を制御する機能です。
Secure Real-Time Transfer protocol (SRTP)	SRTP は、Real-Time Protocol (RTP) Audio/Video Profile の拡張で、RTP パケットと Real-Time Control Protocol (RTCP) パケットの整合性を保証して、2 つのエンドポイント間のメディアパケットの認証、整合性、および暗号化を実現します。	ハンドセットとベースステーションは、メディア暗号化に SRTP を使用します。
Transmission Control Protocol (TCP)	TCP は、コネクション型の転送プロトコルです。	—
Transport Layer Security (TLS)	TLS は、通信のセキュリティ保護と認証に使用される標準プロトコルです。	セキュリティを実装すると、ベースステーションは TLS プロトコルを使用して、サードパーティコール制御システムへの登録をセキュアに実行します。
Trivial File Transfer Protocol (TFTP)	TFTP を使用すると、ファイルをネットワーク経由で転送できます。ベースステーションで TFTP を使用すると、電話機のタイプ固有の設定ファイルを入手できます。	TFTP では、ネットワーク内に TFTP サーバが必要です。このサーバは、DHCP サーバで自動的に識別できます。
User Datagram Protocol (UDP)	UDP は、データパケットを配信するためのコネクションレス型メッセージングプロトコルです。	UDP は RTP ストリームにのみ使用されます。SIP は、UDP、TCP、および TLS を使用します。

外部デバイス

不要な無線周波数（RF）信号および可聴周波数（AF）信号を遮断する高品質の外部デバイスを使用することをお勧めします。外部デバイスには、ヘッドセット、ケーブル、コネクタが含まれます。

これらのデバイスの品質や、携帯電話および双方向ラジオなど他のデバイスとの間隔によっては、雑音が入ることもあります。その場合は、次の方法で対処することをお勧めします。

- RF または AF の信号源から外部デバイスを離す。
- RF または AF の信号源から外部デバイスのケーブルの経路を離す。
- 外部デバイス用にシールドされたケーブルを使用するか、高品質なシールドおよびコネクタを備えたケーブルを使用する。
- 外部デバイスのケーブルを短くする。
- 外部デバイスのケーブルに、フェライトまたは同様のデバイスを適用する。

シスコでは、外部デバイス、ケーブル、およびコネクタのパフォーマンスを保証できません。



注意

欧州連合諸国では、EMC Directive [89/336/EC] に完全に準拠した外部スピーカ、マイクロフォン、ヘッドセットだけを使用してください。
